

ドメイン名の
ライフサイクルマネージメント
-2020-
DNSOPS.JP
石田慶樹

ドメイン名のライフサイクルマネージメント

ケーススタディ

ドメイン名のライフサイクルとリスク

ドメイン名のライフサイクルマネージメント

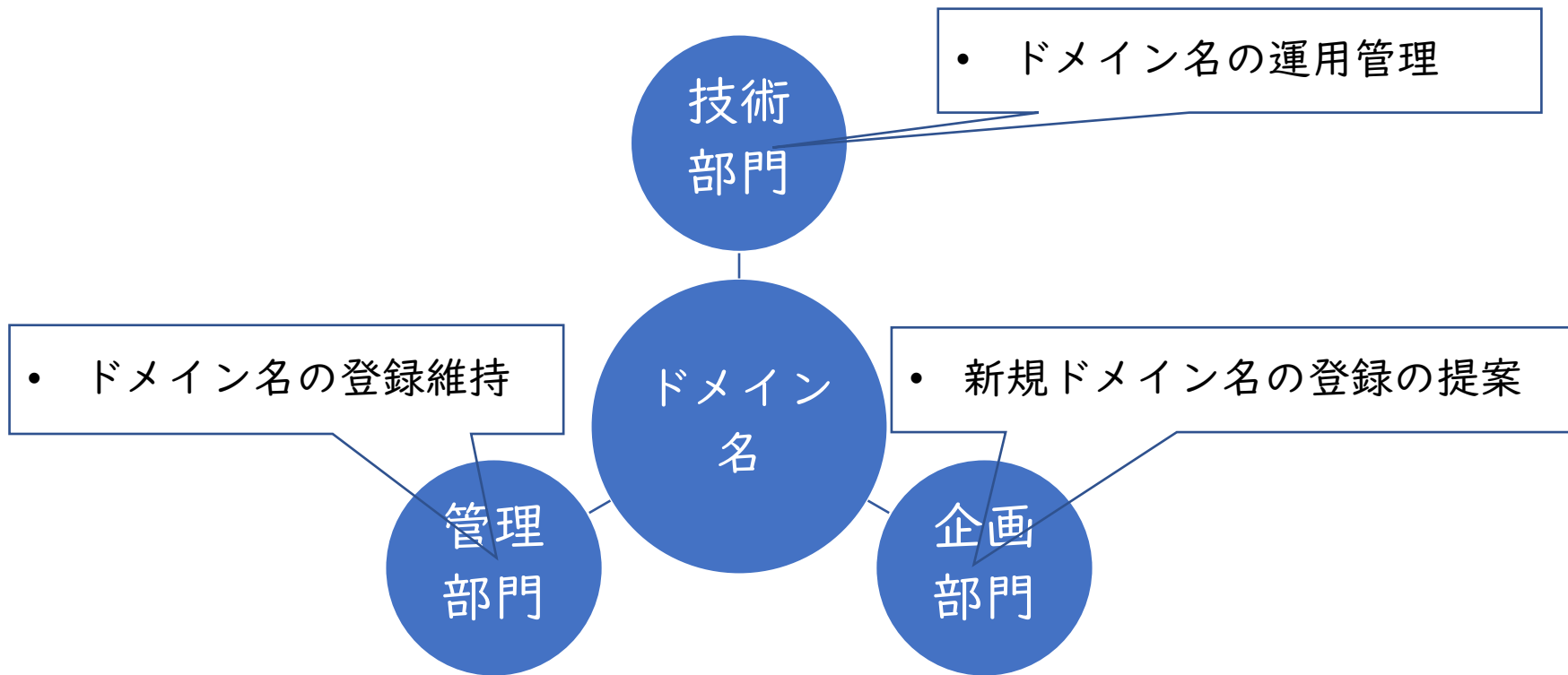
- ドメイン名の低価格化に伴い使い捨てる予定でドメイン名を登録
- ↓
- 組織のポリシーの変更に伴い利用するドメイン名を変更
- ↓
- 利用終了後に維持料を節約するためにドメイン名を廃止
- ↓
- ドメイン名を一旦廃止しても一定のリスクが存在
- ↓
- ドメイン名のライフサイクルマネージメントの重要性

- 用語
ドロップキャッチ：
失効したドメイン名を再登録が可能となるタイミングで第3者が登録すること

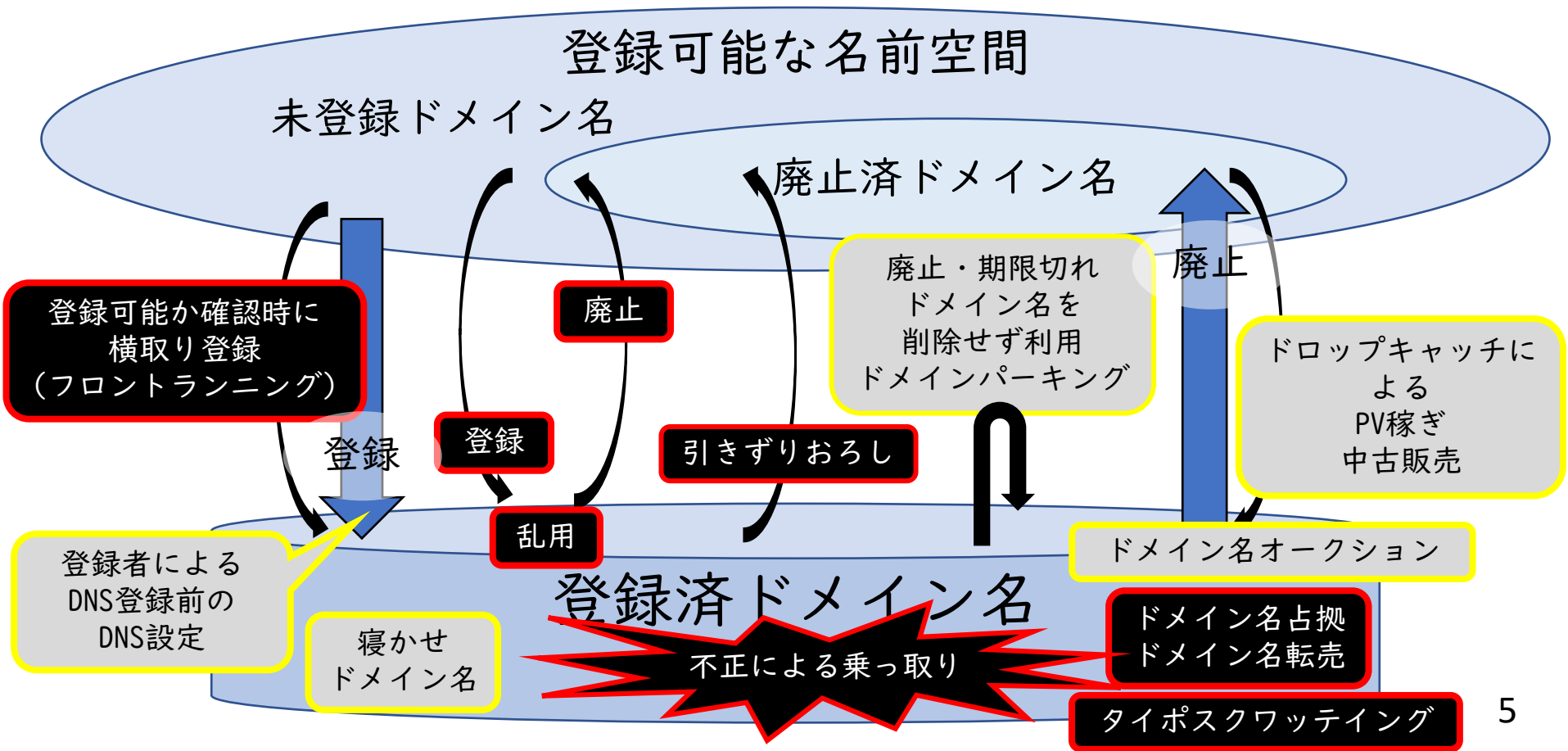
ドメインパーキング：
使用していないドメイン名を管理するサービス

ドメインオークション：
人気のあるドメイン名をオークション形式で購入するサービス

ドメイン名の登録と管理



ドメイン名のライフサイクルとリスク



ドメイン名のライフサイクルマネージメント

ケーススタディ

ドメイン名のライフサイクルとリスク

2016.11.15 11:07

市の旧HPからカジノ誘導…偽観光サイト、第三者が取得悪用 愛媛・新居浜

愛媛県新居浜市の旧ホームページ（HP）のドメイン（インターネット上の住所）を使った偽の観光サイトが作成され、利用者がカジノのサイトに誘導されていることが15日、同市への取材で分かった。市が手放したドメインを第三者が取得、悪用したとみられ、市は注意を呼び掛けている。

悪用されたのは、市運輸観光課が今年3月まで運用していた観光サイトのドメインで「niihamakanko.com」。市の観光案内なども表示されるが、オンラインカジノの関連情報が表示され、誘導するようになっていた。

観光サイトを今年4月、市の公式ホームページに移設し、旧ドメインは手放していた。

運輸観光課の高橋利光課長によると、旧ドメインの保有には年間約2万8千円が必要。「仕組みに理解不足があった。旧ドメインも一定期間は保持するべきだった」と話している。

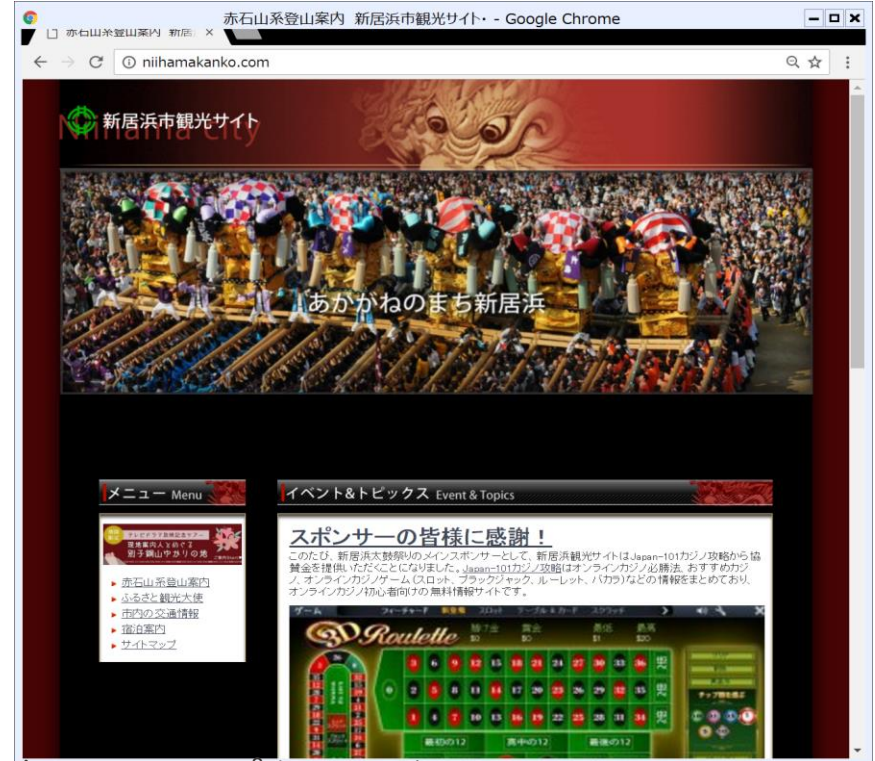
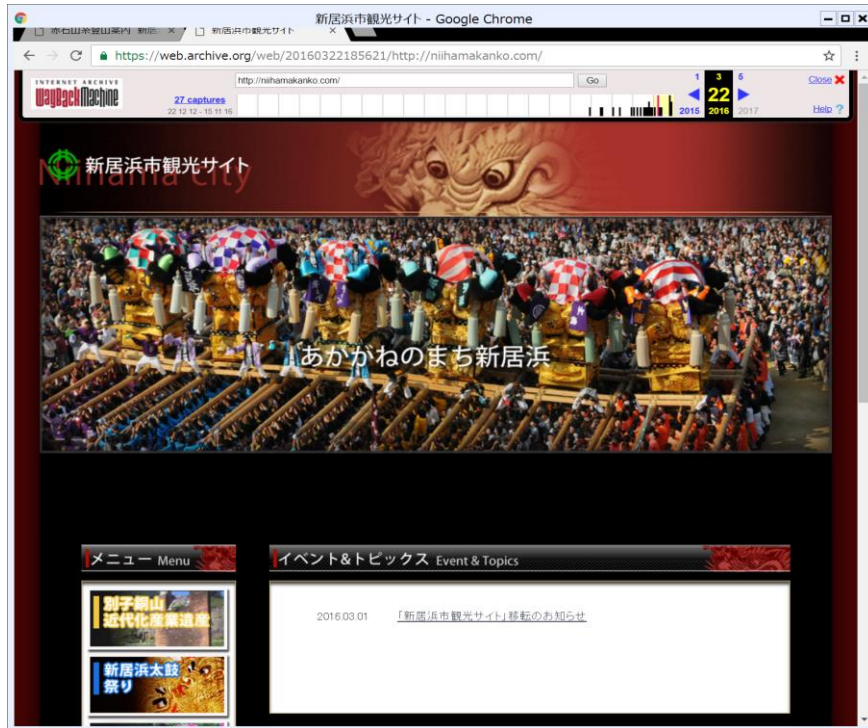
同課によると、15日現在で、被害や苦情は確認されていない。

市は、愛媛県警に相談するとともに、今後の対応を検討している。



愛媛県新居浜市の旧HPのドメインを使った偽の観光サイト。オンラインカジノの関連情報が表示される

ケース I: niihamakanko.com



- コンテンツは乗っ取られているが、ドメイン名はドロップキャッチ
- 現時点 (2020/11/24)では再びドロップキャッチされている

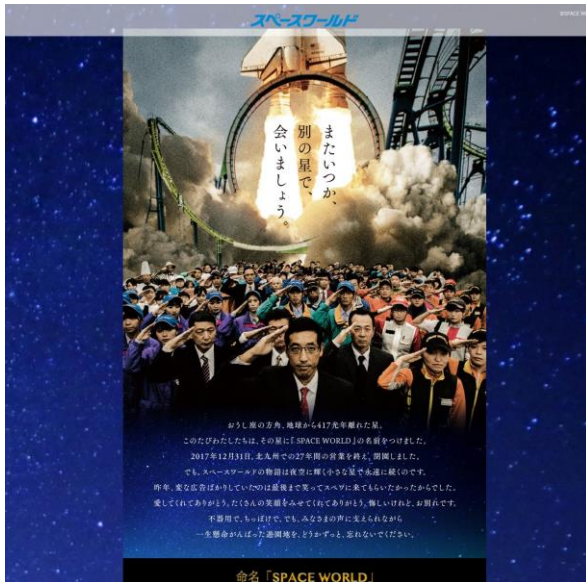
ケース2:CO.JP／属性型ドメイン名

- CO.JPのような登録にあたっての制限のある属性型ドメイン名もドロップキャッチの対象となる
- CO.JPドメイン名の登録解除は合併や事業譲渡などによって会社の形態が変更された場合
- 多くの場合ドメイン名の登録が解除される
- 登録解除されたドメイン名に対して法人の要件を満たしたうえで登録される事例が発生

ケース2:属性型JPドメイン名

スペースワールド
spaceworld.co.jp

ドロップキャッチ



スペースワールド → 閉園(2018/01/01)



ケース3:ドロップキャッチ／ドメインパーキングされたドメイン名

公的機関

- world-bonsai-saitama.jp
- daigakukan-renkei.jp
- e-netcaravan.jp
- puranori-ehime.jp(RI8サイト)
- anjo-sikaisikai.jp
- tohokubunka.com
- ehime-it.org
- odate-city.jp(RI8サイト)
- kobe-panmachi.jp
- tottori-furusato.jp
- ibaraki-campaign.jp

その他

- nhk-grp.jp
- yorimo.jp
- spottedfig.org
- takemotonaokazu.com

ケース4: ドロップキャッチされたドメイン名

- ドロップキャッチされたドメイン名がJP-DRPにより移転された例
 - pokemon-expo-gym.jp
JP2019-0005
 - sb-x.jp
JP2019-0002
- いずれも登録が終了して間もなく登録(ドロップキャッチ)
 - pokemon-expo-gym.jpについては翌日
 - sb-x.jpについては1か月後
- ドメイン名の不正の目的の判定
 - オリジナルのコンテンツをコピー
 - オンラインカジノへ誘導

circleksunkus.jp はどうなるか？

ドメイン名のライフサイクルマネージメント

ケーススタディ

ドメイン名のライフサイクルとリスク

ケーススタディより

- ドメイン名の移転により廃止したドメイン名や一時的なドメイン名においてドロップキャッチやドメインパーキングされたケースは多数
- ドメイン名そのものではなく外部に設定していたネームサーバのドメイン名がドロップキャッチされて乗っ取られるというインシデントも発生
- ドロップキャッチされたドメイン名がDRPなどを利用して元々の登録者が取り戻せるかどうかの明確な規定は存在せず
- ドロップキャッチ後のドメイン名が不正の目的で利用された場合にはDRPにより取り戻すことは可能
- JP-DRPにおいてはドロップキャッチに対して厳しい裁定がなされる傾向
- 属性型JPドメイン名でも有名なものであればドロップキャッチの対象

ドメイン名の登録

- ドメイン名の登録目的
 - 組織指向⇒長期の維持が前提
 - 組織用ドメイン名
 - ブランド用ドメイン名
 - 非組織指向⇒短期的利用が多い(?)
 - サービス用ドメイン名
 - イベント用ドメイン名

ドメイン名の登録

- なぜ新たなドメイン名の登録を行うのか
- 組織指向ドメイン名のサブドメイン名ではないのか
 - サブドメイン名は分りにくい
 - 組織内で設定・変更するのに時間がかかる
 - SEO対策
 - 組織のポリシーにより困難
 - Webの運用を外部へのアウトソースする場合
 - メール・アドレスの送信先や証明書の組織名の問題

- 使い捨て予定で新たなドメイン名を登録する



- 利用後にドメイン名を廃止



- ドロップキャッチやドメインパーキング等のリスク

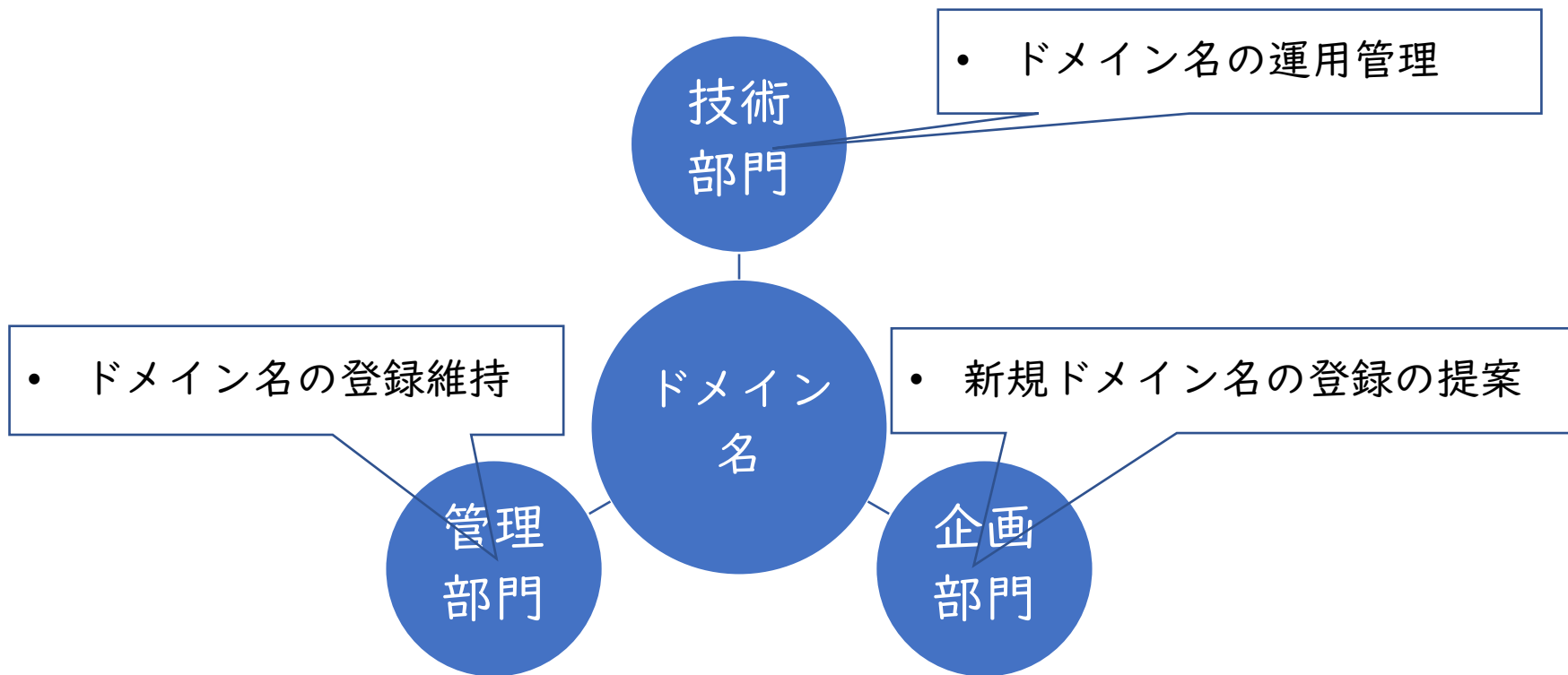
ドメイン名の登録

- なぜドロップキャッチが発生するのか
 - 既存のWebサイトが持っているページビューを労せず獲得可能
 - すでに複数のリンクがありかつ検索エンジンに掲載済み
 - SEO対策としてもデメリットが少
 - 一部のドメイン名ビジネスの業者も積極的に加担
 - 専門の業者も存在

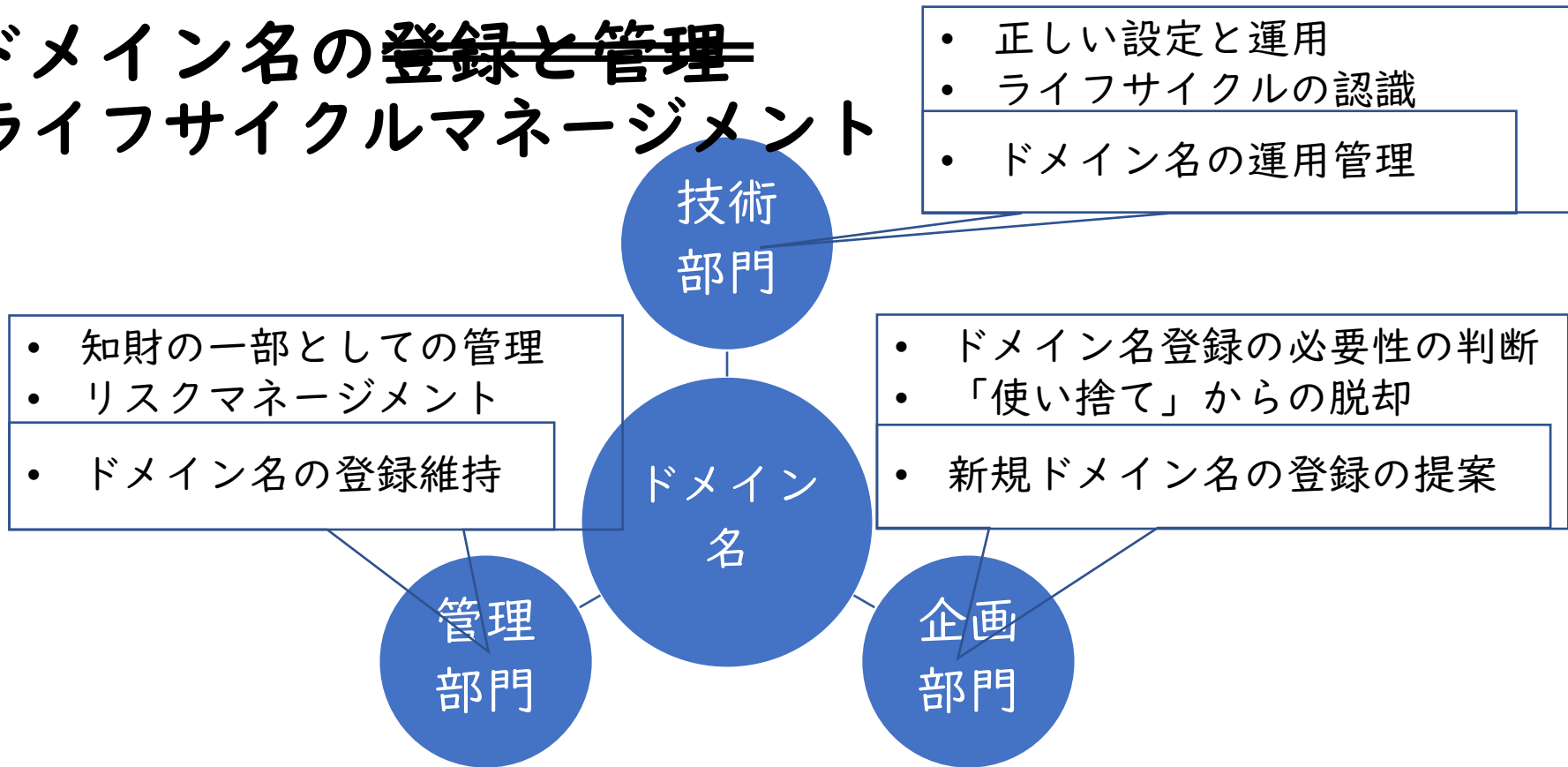
ドメイン名の登録

- ドメイン登録のBest Practiceがあるのではないかと
 - 登録するドメイン名の
 - example2020.jp ではなく 2020.example.jp とする
 - ドメイン名登録におけるレピュテーション
 - 事業者としてはレジストリ/レジストラ/リセラーのいずれも
 - TLD そのもののレピュテーション
 - 事業者の運用体制のレピュテーション
 - ドメイン名ロックの有無
 - 登録者の認証
 - 登録管理業務のI/F(Web I/F, WebAPI等)
- そもそも論
 - ドメイン名関連のステークホルダーはドメイン名の不正利用に対して自覚的にあるべきではないかと
 - 機械的な文字列生成による明らかに不正目的の登録
 - 不正利用のためのドメイン名登録
 - SPAM等
 - マルウェア配布
 - 海賊版配布
 - 好き勝手にさせることは「インターネットの自由」を自ら毀損することにつながる

ドメイン名の登録と管理



ドメイン名の登録と管理 ライフサイクルマネジメント



ドメイン名のライフサイクルマネージメント

ご利用は計画的に

